

平成17年7月1日

(第60号)

# 鵜 戸

暑中お見舞い申し上げます

鵜戸神宮ホームページ <http://www.btmv.ne.jp/~udojingu/>

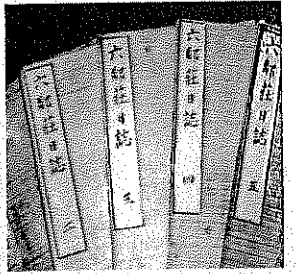
発行者兼編集者  
鵜戸神宮社務所

# 飢肥藩伊東家と鵜戸神宮の関係

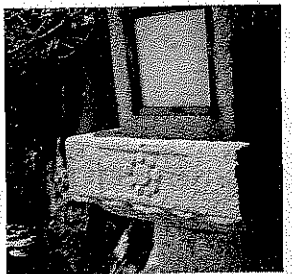


宮司 杉田秀清

伊東祐兵公は、豊臣秀吉の九州遠征の折に先導をつとめた戦功を認められて、天正十五年（一五八七）に飢肥を賜り、伊東飢肥藩の第一代の藩主となりました。以来、江戸時代より明治時代の第十四代藩主祐婦公まで、一回の転封もなく二百八十年間歴代の藩主は飢肥藩の治政にとどめました。鵜戸山に対しても信仰厚く度々参拜、寄進をなし、第三代祐久公は慶安元年に九曜紋の入った十基の大石燈籠（現存）を寄進しています。「六郷荘日誌」（後述）にも天保四年、嘉永五年に「鵜戸神社ヲ拜ス」「鵜戸社を拜ス」と度々の参拝を平部崎南は誌しています。



六郷荘日誌



九曜紋の入った石燈籠

現在の御社殿は、三百年前の第五代祐實公寄進の建築であるといわれ権現造で極彩色が施してあり、明治二十三年に修繕されていますが、幣殿拜殿部分並びに彫刻は江戸時代そのまま使用されていると思われるふし

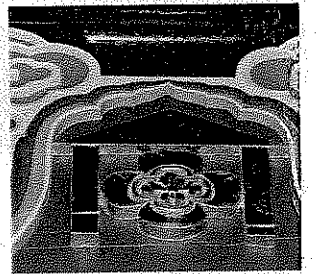
があります。外部からよく見える幕股の中心紋様には菊御紋が多く使われているのは、皇室とのつながりから明治以降に作られたものと思われまふ。その理由は、

明治七年鵜戸神宮は官幣小社に列せられ、明治二十八年には官幣大社に列せられ「明治七年に官幣社社殿の装飾及び幕提灯に限り菊御紋を用いることを許す（太政官達）」の布達が出されていることから、菊御紋が使われはじめ幕股の中心紋様も大部分が菊御紋になったと思われまふ。

しかし、外部より見えない内々陣正面の幕股中心紋様には、伊東家の「庵木瓜紋」が残っており、内々陣左右の幕股中心紋様、又右脇障子の上には「一文字紋」があります。この紋も伊東家縁りの紋で今まで何故使われているのか不明です。しかし、「戦陣一番乗り」の意を込めた縁起の



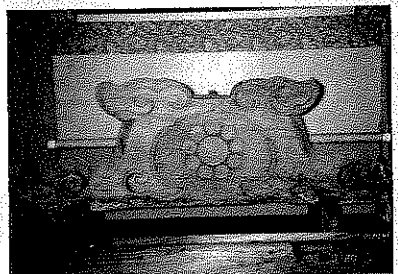
一文字紋



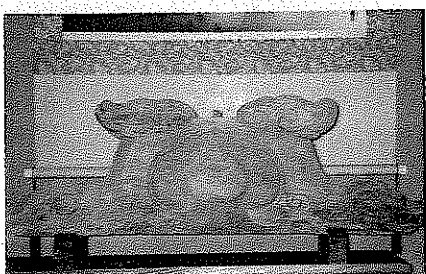
庵木瓜紋

紋で「勝つ」紋ともいわれ、首藤家の代表紋ですが伊東家のほか多くの武将がもっていることが分かります。

尚、内陣の「日」「月」「宝珠」「竹」「葡萄」等の幕股中心紋や、数々の彫刻類、柱、長押等は江戸時代の古いものがそのまま使われていると思つてよいのではないのでしょうか。又、別に社務所に表「九



九曜紋の入った幕股



宝珠の入った幕股

さて先日、神庫を整理中に二面の神額が出てまいりました。一面は表に「鵜戸



神額 鵜戸山権現

山権現」と漆塗に刻され裏面は墨書であるが傷みがひどく、わずかに「武運長久 国家」「五十四世隆貴」の文字が見えます。江戸時代は神仏習合で鵜戸山は両部神道の大霊場として隆盛を極め、西の高野山ともいわれたほどです。五十四世の別当の名も見え、この神額もまた当時の有様を垣間見ることが出来る貴重なものでしょう。

さて、もう一面の神額は表に「鵜殿神社」と刻され右上に「日彫日琢」と刻されています。彫琢とは字句に磨きをかけてという意味です。左下には「藤原祐相」と「字竈卿」の落款が押され、裏面に「明治三庚午二月十六日」「藤原祐



神額 鵜殿神社



落款

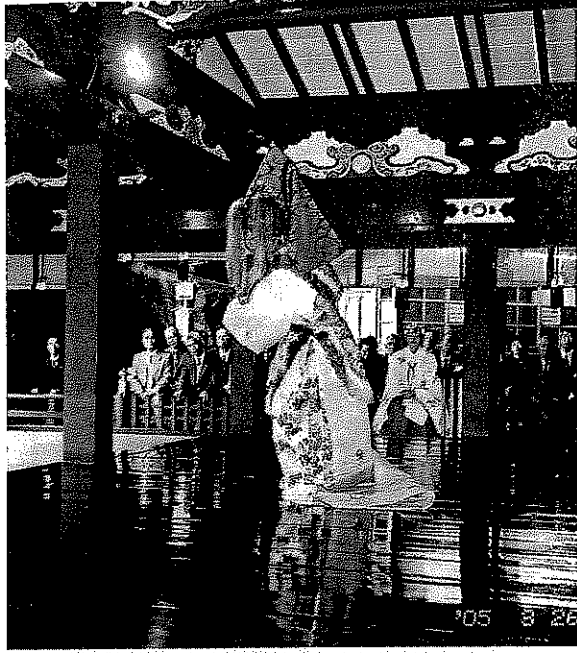
たと思われまふ。この二面の神額は江戸時代から明治初期の鵜戸山の変遷を示す貴重なものと思えます。慶応三年（一八六七）に第十五代將軍徳川慶喜公が大政を奉還し、翌年には

年号が明治と改められ時代も社会も大きく変わりました。神仏分離令が出され鵜戸山も大きく変貌しました。明治二年一月には「鵜戸山」全体は「鵜戸神社」となりました。さらに、明治二年六月には版籍奉還が行われ、藩主は明治政府により藩知事に任命され中央集権化がはかられました。藩主は第十三代祐相公でしたが病の為に七月に辞任し、第十四代祐婦公が藩知事に十五歳で任命されています。

儒学者として有名な安井息軒の門人で、のちに飢肥藩の家老、大参事となり藩の運命を双肩に担った平部崎南は、「六郷荘日誌」の中で明治の激動の様子を書き残しています。祐婦公が飢肥城から去られた時の様子を、明治二年十二月二十七日「今日知事公年十五老公年五十八姫君三人本城ヨリ豫章館ニ移ラ

セラル。今ノ知事公マテ十四代住嗣玉ヒシヨ一旦ニシテ立退キ玉ヒケルハ時勢ノ変遷餘義ナキ事トハ云ヒナカラ心アル輩ハ竊ニ感涙ヲ流シケル。豫章館に移られた祐婦公は、藩知事も明治四年七月には解任され、明治四年八月十九日に飢肥の人々に送られ、父祐相公と祐婦公の両旧藩知事は東京に住まわれる為上京されました。この時の様子を「旧君ノ永ク此土ヲ立去リ玉フ事ナレハ、藩中ノ男女老弱皆別ヲ惜ミテ見送り奉ル者市街ニ充満セリ」。この後、飢肥城の取り壊しが行われました。明治五年六月には「十八日晴余カ去年八月出郷セシヨリ世態又一増変遷シテ飢肥城ハ開院トナリ五ヶ所ノ郭門モ悉皆廢毀シ。大ニ打交リケレハ桑海ノ感ニ堪ヘス」。翌六年八月九日には「飢肥城大書院小書院松ノ間次ノ間舞台等ニ至ルマテ総テ取毀。此城ハ今ノ從五位公祐婦マテ十世百七十九年（慶應元年）住居ノ地今一時ニ廢墟ト成ヌレハ自力ラ懐旧ノ感ヲ生シ徘徊願望シテ去ル能ハサリキ」と誌しています。こうして祐婦公も飢肥城も、激動の渦の中で大きく変貌してまいりました。因みに祐婦公は在京のまま明治十八年から明治二十七年まで、第二代の鵜戸神宮宮司に就任されています。

江戸から明治の激動の時期、祐婦公が最後の藩主であり、のちに宮司に就かれたのも伊東家と鵜戸神宮との結びつきが極めて深かったことを物語っています。以後も伊東家は鵜戸神宮を守護する気持ちは強く、伊東家一族の伊東峻次郎氏が第四代宮司に就任されています。



古来、旧暦二月の祭礼日に祈願する参拝者で賑わったと伝えられている縁日大祭が、三月二十六日午前十一時三十分より、多数の参拝者を賜り齋行された。

奉祝行事として、昨年のシャンシャン馬道中唄全国大会において、総合優勝した小淵華子さんによる「シャンシャン馬道中唄」

### 春の縁日大祭齋行

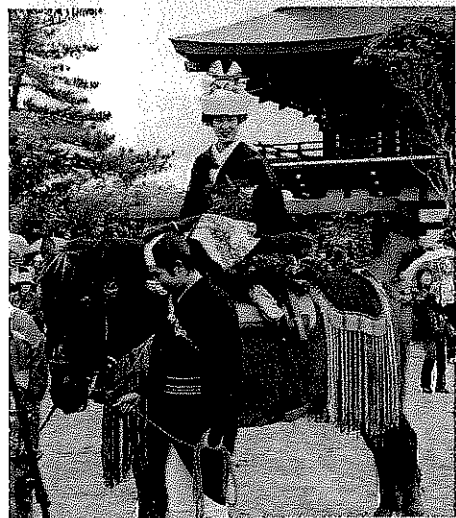
当神宮職員による「豊栄の舞」、「鵜戸さん獅子舞」、舞楽「納置利」が奉納され参拝者も興味深く見入っていた。

この祭典は、昭和二十九年を最後に途絶えていたが、「伝統行事の復活」という気運が高まり平成十二年より執り行われている。



「第19回 シャンシャン馬道中唄全国大会」決勝大会が三月二十六日、儀式殿にて開催され二百七十九名が出場。総合優勝には、寿年、実年、成壮年など五部門の優勝者の中から成壮年の部の有田伊津美さん(宮崎市)が選ばれた。

会場は朝早くから民謡愛好家で埋まり、「鵜戸さん参りは春三月よ・・・」と唄の終わるたびに大きな拍手



手につつまれていた。前日には日南市文化センターにて予選が行われ、県内はもとより埼玉、富山県などから三百五十六名の出場があった。

又、決勝当日は明治の頃まで行われていた「シャンシャン馬道中」の鵜戸さん参りが再現された。これは、結婚すると必ず当神宮へお参りをするという、当地方の風習であった。

### シャンシャン馬道中唄全国大会開催 シャンシャン馬道中再現

今年は県内外から十二組の応募があり、三組の新婚さんが選ばれた。単衣の着物、草鞋はききという昔ながらの出で立ちで御本殿にて正式参拝。その後、花嫁を乗せた馬の手綱を花婿が引き境内を一周した。

参拝者は、笑顔をやささない新婚さんに大きな拍手を送り祝福していた。

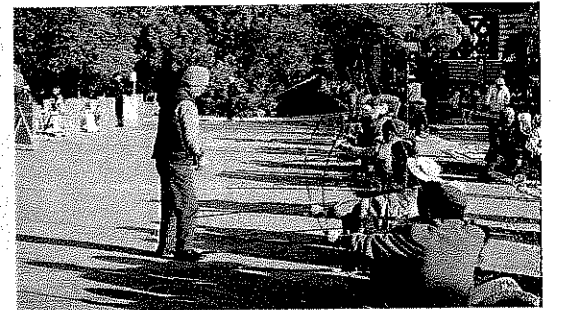
### 例祭齋行

二月一日時おり小雪の舞う中、例祭が厳粛に齋行された。この日は、県南部平野でもこの冬初めての降雪を観測するなど、一日中厳しい寒さとなったが、責任役員、氏子総代をはじめ県内外の神社関係者、崇敬者等の参列を賜った。

祭典では、宮司が祝詞を奏上。本庁幣が献ぜられ献幣使の祭詞奏上の後、舞楽「納置利」が奏舞された。又祭典に先立ち福岡藩伝柳生新影流兵法・第十四代宗家長岡鎮廣氏らにより、活人劍組太刀の兵法が奉納された。



二月六日には第五十二回剣法発祥鵜戸山顕彰剣道大会が開催され、県内から百五十六チーム、女子個人戦に百六十九名が出場。熱戦が繰り広げられ、旗の上がるたびに大きな歓声が沸き上がっていた。



### 御田植祭齋行

晴天に恵まれた三月十九日、鵜戸地区の御神田にて田の神の御降臨を仰ぎ、稲の順調な生育を祈願する御田植祭が齋行され、多数の参列を賜った。

田植は、注連縄の張られた約二アールの御神田に、編みかさにかすりの着物姿の早乙女やハッピー姿の小学生、氏が横一列に並び、「お田植え、始めませ」の



晴天に恵まれた三月十九日、鵜戸地区の御神田にて田の神の御降臨を仰ぎ、稲の順調な生育を祈願する御田植祭が齋行され、多数の参列を賜った。

御田植祭は、古来より受け継がれてきた日本の食文化の基である稲作を、後世に伝えていくべき大事な行事である。

### 日南海岸国定公園指定 五十周年記念奉告祭齋行

六月一日当神宮において、宮崎、日南、串間市、南郷町でつくる日南海岸活性化推進協議会主催により、日南海岸国定公園指定五十周年記念奉告祭が御本殿にて齋行され、宮司祝詞奏上その後「豊菜の舞」が奉奏され、参列者が玉串を捧げた。

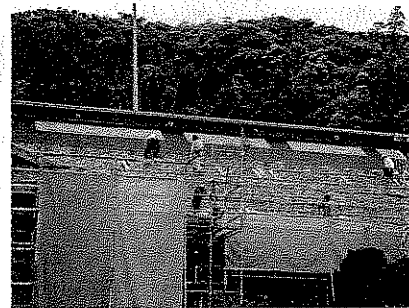
祭典終了後、儀式殿前広場にて記念式典を開催。主催者挨拶、ハイビスカスの苗木の記念植樹、アトラクション等が行われた。

日南海岸国定公園は昭和三十年六月一日、国内初のロードパークとして指定を受けた。



### 災害復旧工事竣工

昨年の台風襲来により、楼門・社務所・儀式殿などに多大な被害を受けた。被害箇所が多かったため、思いのほか工事に時間を要したが、今年六月ようやく竣工することができた。



#### 災害復旧協賛者名簿

平成十六年二月二日平成十七年六月

(敬称略)

皆様方の御浄財、誠に有難うございました。ここに厚く御礼申し上げます。

園田 恒則 田之上 豊  
川畑 学 川添 武雄

成瀬 直美 諸星 康雄 福間 勝三 横山 正輝  
木戸 亀子 中澤 理子 吉富 敏江 池尻 英一  
高城 兼幸 中野 光男 中崎 武美 長友美穂子  
藤野 淡人 山口 利和 小満 寿朗 谷川 秀樹  
吉田 弘 寺本 照一 松葉 睦生 大石 敬  
温水佐知子 岡元 勇夫 瀧友 紀子 溝口 次海  
吉海 洋 松本 幸市 高田 満夫 野辺きみ子  
石田 精司 石田航太郎 兼武 昭勇 斎藤 郁子  
矢野 次男 原田 匠基 大槻 俊雄 北井 敬伸  
光武 猛幸 松枝 寅夫 大城 旭 島袋 玉木  
満留キミエ 井上 吉秋 坂本真知子 宮田 和幸  
菅 忠孝 川野 富代 川上 博秋 桐谷麻美子  
市成 祐輔 徳留 良弘 三樹 正男 平山 文夫  
千川 喜成 松沼 均 山田 武子 野口 勝次

#### 平成十七乙酉年鶺鴒神宮神事一覧表(七月～十二月)

日	時間	祭	月	祭	月	祭
1日	10時	月次	七月	月次	七月	月次
1日	10時	月次	八月	月次	八月	月次
6日	10時	一之卯	八月	一之卯	八月	一之卯
11日	10時	一之卯	八月	一之卯	八月	一之卯
19日	10時	一之卯	八月	一之卯	八月	一之卯
23日	10時	一之卯	八月	一之卯	八月	一之卯
1日	10時	月次	九月	月次	九月	月次
1日	10時	月次	十月	月次	十月	月次
10日	10時	一之卯	十月	一之卯	十月	一之卯
11日	9時30分	一之卯	十月	一之卯	十月	一之卯
13日	10時	一之卯	十月	一之卯	十月	一之卯
17日	10時	一之卯	十月	一之卯	十月	一之卯
23日	10時	一之卯	十月	一之卯	十月	一之卯
24日	10時	大祭	十一月	大祭	十一月	大祭
1日	10時	月次	十二月	月次	十二月	月次
3日	10時	月次	十二月	月次	十二月	月次
6日	10時	立冬	十二月	立冬	十二月	立冬
7日	10時	立冬	十二月	立冬	十二月	立冬
15日	10時	大祭	十二月	大祭	十二月	大祭
17日	10時	大祭	十二月	大祭	十二月	大祭
23日	10時	大祭	十二月	大祭	十二月	大祭
31日	10時	大祭	十二月	大祭	十二月	大祭

### 第六十二回神宮式年遷宮 シンボルマーク・標語募集

平成二十五年に伊勢神宮「式年遷宮」を成功させるための標語(スローガン)が齋行される。

#### 応募規定

- ・伊勢神宮式年遷宮広報部は、千三百年前より二十年に一度執り行われてきた式年遷宮への理解と関心を深めてもらい、広く国民の協力を賛同を得るため、シンボルマークと標語(スローガン)を一般公募することに。
- ・作品はシンボルマーク、標語ともハガキ一枚につき一作品とし、自作未発表作品に限る。一人(一グループ)で何点でも応募可。なお、応募作品を返却せず、応募作品に関わる一切の権利は主催者に帰属する。

「式年遷宮」を成功させるための標語(スローガン)が齋行される。

募集期間  
平成十七年四月一日より平成十七年八月十五日(当日消印有効)まで

応募先・問い合わせ先  
〒一五一一〇〇五三  
東京都渋谷区代々木一一一  
一二 本社本庁内

伊勢神宮式年遷宮広報本部  
「シンボルマーク・標語募集」係  
(電話)〇三一一三三三九九一  
八〇一一(代表)、〇三一一三三三九九一〇一一(直通)、ファックス〇三一一三三三九九一八二九九、(Eメール) <http://www.senguinfo/>

応募内容  
①シンボルマーク部門  
「神宮」をイメージしたシンボルマーク(モノクロ、カラーどちらでも可)  
②標語部門

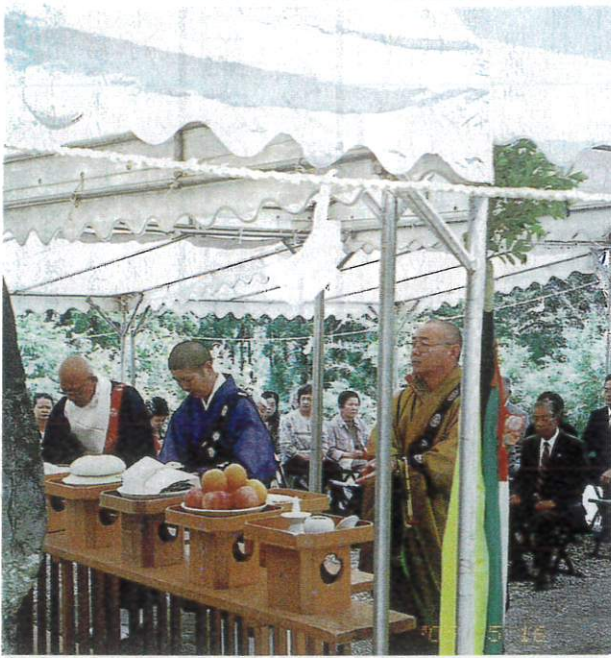
・作品はシンボルマーク、標語ともハガキ一枚につき一作品とし、自作未発表作品に限る。一人(一グループ)で何点でも応募可。なお、応募作品を返却せず、応募作品に関わる一切の権利は主催者に帰属する。

### 別当宮司先賢慰霊祭齋行

五月十六日午前十一時より、鵜戸山別当墓地において別当宮司先賢慰霊祭がしめやかに齋行された。

この墓地には、天台宗の僧と伝えられる光喜坊快久(第一世)から第五十九世までの霊が祭られていることから、神仏合同の慰霊祭として齋行され、当神宮の特殊神事に位置づけられている。

満寺住職・伊勢木俊真氏、願成就寺住職・川崎光俊氏、王楽寺住職・甲斐裕隆氏に



### いさみ太鼓奉納

五月五日の「子供の日」午前十時より、そろいの鉢巻・ハッピー姿の子供たち五十名が御本殿と儀式殿前広場にて「いさみ太鼓」を奉納。鵜戸の大神様と祖先の恩とに感謝すると共に、無病息災を祈った。

G・Wとあつて参拝者も多く、太鼓・笛・鈴の軽快

なりズムに足を止め勇壮に舞う子供獅子にカメラを向けていた。

このいさみ太鼓は、昭和五十一年に昭和天皇御在位五十年を記念して創作され、当神宮下の荒磯に打ち寄せ砕け散る波の様子を表わしている。



### 新職員紹介

巫女 徳地亜紀

生年月日

昭和六十一年八月三十一日

最終学歴

日南工業高等学校

趣味

読書



巫女 江藤美香

生年月日

昭和六十一年九月二十三日

最終学歴

日南徳商業高等学校

趣味

音楽鑑賞

